

「品質の仲間づくり:TQMを一緒に」の活動提案

実践を伴うTQMは顧客・社会が求める価値を提供できる組織能力を育むための有効なツールであり、品質向上延いては品質不祥事/品質不正の防止につながるという信念のもと、これまでJSQCをはじめ各種品質団体が品質経営の重要性を発信してきました。しかし、その様な中で品質不祥事/品質不正が継続して発生しています。

JSQCは、これまで必要と考えるTQMの提言や発信を行ってきましたが、この品質不祥事/品質不正の継続的な発生という事態に直面し、これまでの提言や発信が本当に日本の全産業界に受け止めて頂けるものになってきたかということを反省します。

また、ニーズの多様化、一企業内にとどまらない企業間をまたぐビジネスプロセスへの転換、DX推進、働き方改革などの変化を見据えて適切なTQMのあり方を提言するなど、産業界とともに歩む姿勢が必要と考えます。

そこで、JSQCは、各企業がTQMの実践によって効果が得られたという手応えを感じ一層TQMに取り組むという正のスパイラルになるにはどうすればよいのかの議論を開始点に、経営層を中心としたTQMの実践を支援する「品質の仲間づくり:TQMを一緒に」の運動を推進します。尚、この活動はJAQ(Japan Association for Quality:品質関連5団体)をはじめ、関連する諸団体とも広く協力して進めたいと思います。



(一社)日本品質管理学会
会長 若林宏之

【現状認識】品質経営のツールであるはずのTQMが品質不正の継続発生防止に結果として役立っていない

【JSQCの反省】TQMの発信をしてきたが、TQMの実践の効果が結果として企業に受け止められていない

「品質の仲間づくり:TQMを一緒に」の活動提案

JSQCが下記の活動をJAQ、関係諸団体(経団連、監査役協会、経産省等)と連携して推進。

- ・シンポジウムの開催 [TQM実践の効果を享受するためのご要望、ご提案に関する議論の場]
- ・シンポジウムでの議論を踏まえた企画立案、実行